

組合の動き

組合旅行 海外編 《韓国ソウルの旅》



景福宮 勤政殿にて

今年の組合親睦旅行は、はじめて海外へ。10月14日から2泊3日で、組合員と組合職員を交えて31名が参加し、韓国ソウルを満喫してきました。

組合旅行の行き先に、組合員から海外への希望も多く、今年の旅行は日本に近い韓国に決まりました。

海外旅行のため、事前の手続きで、参加される方が組合に来られた際には、買い物やお土産の話、韓国通貨ウォンの話等など、旅行の前から楽しい話題で持ちきりでした。

旅行の出発は、組合本部からです。午前8時に集合して、バスは一路関西空港へ。出国手続きを済ませ、少しくつろいでから搭乗です。関空から1時間45分で金浦空港に、お昼過ぎに到着。観光バスで3日間のソウル周遊の旅が始まりました。

初日は、ソウル市内の観光で、日本語の上手なガイドさんから、韓国の歴史と現在の隣国との状態の説明を聞きながら、バスは大統領官邸である青瓦台（せいかだい）の広場、韓国を代表する故宮の一つである景福宮（キョンボクン）へ。景福宮は、古く朝鮮王朝の正宮で、王の政務と生活の場であり、光化門から中に入ると、広大な敷地の中の興礼門へと続き、勤政殿、慈慶殿など数多くの文化財の建物が配置されていて、韓国の歴史をしのびながら散策しました。

2日目は、北朝鮮との国境付近の自由の架け橋と統一展望台を見学しました。韓国と北朝鮮の不幸

な歴史の標を目の当たりにして、平和の尊さを改めて実感しました。

韓国旅行の楽しみは、買い物、食べ物、韓国あかすりエステといろいろあります。

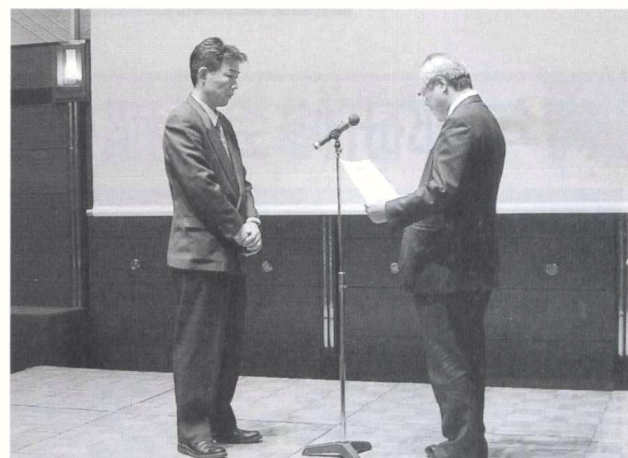
食べ物では、夕食に美味しい韓国焼肉をおなかいっぱいいただいたこと、宿泊しているロッテホテルの朝食が豪華で2泊でも、全種類が食べきれなくて残念な思いが残ったこと。そして、食事毎についているキムチのほどよい辛さが、食べやすかったこと、参鶏湯を食べた人は、本場の薬膳料理でおいしくて身体にいい感じがしたと喜んでいた等、多くの人が韓国の食を楽しみました。

買い物は、ホテルの近くにロッテ百貨店、免税店、明洞（ミョンドン）の繁華街があり便利です。2日間同じところに行く人や、東大門市場にも大雨の中に繰り出すなど、みんな本当にタフでした。化粧品（クリームやパック）やブランドもの、生薬、韓国のり、服とたくさん買い、韓国エステの体験など、韓国の経済に多大な貢献をしました。

此の度の旅行は、自由時間も多く、目的毎のグループが発生、みんながお友達になり、初めて参加された方でも打ち解け、本当の親睦旅行になりました。

旅行が終わって組合に着いたとき、“又来年ね!”と笑顔で帰る方も多く、組合では、次の旅行はもっとたくさんの方が参加されますようお待ちしております。

那智勝浦町配水幹線復旧応援 “ご協力感謝のつどい” を開催



去る11月25日に、ホテルアバローム紀の国に於いて、那智勝浦町の配水幹線の復旧応援に協力いただいた組合員事業主、従業員各位にご参加いただき“ご協力感謝のつどい”を開催しました。

和歌山県では、9月初めに通過した台風12号の長引く大雨により、紀南地方に山の崩壊、土砂崩れ、川の氾濫により多くの人命が失われ、家屋や道路などにも甚大な災害をこうむりました。

道路の流失で広範囲に送・配水管が寸断され、多くの住民が断水で生活に支障をきたしている那智勝浦町から、当初は大手ゼネコンに依頼していたようですが、人員の確保等限られた日程で、配水管の復旧工事への対応が難しい為、県連合会宛に早期の復旧工事応援の要請がありました。緊急性と工事の規模等詳細を検討の結果、特定建設業の許可を持つ当組合が対応することになり、東日本大震災発生時の応援対応調査結果に基づき、緊急に組合員に要請し、突然の要請にも関わらず、即刻20事業所が人や機材、車等のご協力をいただきました。

9月中での完成が要請された復旧工事でしたが、22日に第一陣が出発し、一日も早く住民の方々に「命の水」を届けたい一心で、関わった全員が一丸となり、昼夜を問わず仕事をし、わずか1週間で工事を終了させることが出来ました。予定より早い通水に、那智勝浦町の町長をはじめ水道事業所、町民のみなさんから大変感謝されました。(詳しくは後日、那智勝浦

町配水幹線復旧応援特集号を発刊します。)

感謝のつどいには、来賓と活動に関わった組合員、従業員、理事、組合職員78名を招待し、濱本事務局長の司会のもと、台風の被災犠牲者の方への黙祷、小向理事長のあいさつ、ご来賓の和田秀教市議会議員、山下直也県議会議員のねぎらいとごあいさつをいただき、この度の活動に参加された組合員事業主、従業員各位に組合から感謝状と記念品が贈呈されました。

懇親会では、濱本局長より那智勝浦町配水幹線復旧応援の概要と経過を、映像を交えて説明された後、工事施工の写真がスライドショーで映し出されました。

この度の応援活動で、現場のリーダーとして活躍された平岡理事からの発案で、復旧工事に参加した事業主や従業員全員を班別に舞台上がっていただき、一言ずつスピーチをしてもらいました。

被災地に着き、被害の様子を目の当たりにしてあまりの悲惨な現状に、自分の出来ること！早く水を届けようとの使命感でがんばって作業をした話、人々に感謝される仕事のできた喜びの話、子供に自慢できる仕事が出来たと、皆が晴れ晴れとした表情で活動に参加させてもらってよかったとの感想を、口々に述べていました。

最後に、西岡副理事長の閉会の挨拶で感謝のつどいの幕が閉じられました。この度の復旧応援活動に参加された方々には改めて、厚くお礼申し上げます。お疲れ様でした。

青年部の

動き

青年部研修会「稲むらの火の館」見学!



去る11月19日(土)に青年部研修会として、和歌山県有田郡広川町(旧広村)「稲むらの火の館」濱口梧陵記念館・津波防災教育センターの見学に、青年部会員6名が参加しました。東日本大震災で津波の恐ろしさが再認識される中、安政南海地震の大津波から紀伊国広村(現和歌山県広川町)の村人を救った物語「稲むらの火」が全国から注目を集めています。主人公のモデル、濱口梧陵とは・・・

1854年(安政元年)安政南海地震による大津波の襲来時、稲むら(稲の束を積み重ねたもの)に火を放ち、この火を目印に村人を高台へと誘導し、多くの人々の命を救った濱口梧陵。この実話をもとにした物語が「稲むらの火」です。濱口梧陵は、津波から村人の命を救ったばかりか、その後も被災民の救済と復旧に尽力。また、百年後の津波に備えるため巨額の私財を投じ、高さ5m、幅20m、長さ600mの大堤防(広村堤防)を築きました。この大工事に村人を雇用することによって、津波で荒廃した広村は奇跡の復興を遂げました。この広村堤防は昭和の南海地震の際に十二分に威力を発揮し、村の大部分を津波から救いました。

濱口梧陵は、7代目ヤマサ醤油を営む事業家としてだけでなく、今で言う郵政大臣や県知事、県議会初代議長の職をも歴任し、教育面では、私塾を開設し、これが後に「耐久社」と呼ばれるようになり、現在の耐久中学校になりました。

広川町では、濱口梧陵の偉業を称え、いつまでも津波災害を忘れないようにと、毎年11月には100年余りの歴史がある「津浪祭」を開催するとともに、平成19年4月には濱口梧陵の偉大な功績や教訓を

学ぶ濱口梧陵記念館と、津波災害のメカニズムや来るべき地震・津波への対処方法等をわかりやすく展示する津波防災センターを合わせた「稲むらの火の館」がオープンし、連日、全国各地から大勢の方々が訪れています。

当日は、朝から大雨の天候でしたが、午後2時に組合本部に集合、午後3時頃入館しました。まず、土間シアターにて映像「濱口梧陵」の生きざまの上映があり、偉業の数々の展示を始め、津波シミュレーション(長さ約16mの津波実験水槽にて津波の伝わり方を学習)、防災体験室(防災の3つの知恵「応急・復旧・予防」をゲーム形式で体験)など、他にもいろいろな展示室やコーナーがありました。なかでも、襲ってくる津波の怖さと威力を体験できる3Dシアターの迫力には全員圧倒されました。その余韻が残ったまま、館内をあとにして研修会は終了しました。

今年度の「稲むらの火の館」の入館者が急増しているようで、11月末現在で、昨年度1年間の1.6倍に達しているようです。東日本大震災や台風12号による豪雨被害、平成23年度より再び小学校教科書に掲載されたことなどで、防災への関心が高まり、最終的には前年度の2倍を記録する可能性もありそうです。平成23年6月には津波対策の推進に関する法律が施行され、「稲むらの火」の故事にちなみ、同地震と津波の発生日の11月5日が「津波防災の日」と定まりました。

近い将来、東南海・南海地震が予測されている今日、自然災害の怖さに備え、少しでも防災知識を広め、今後備える為にも、是非一度、見学をおすすめしたいと思います!



おせち料理

あけましておめでとうございます。

皆さんはどんなお正月を過ごされましたか？初詣？それとも家でテレビを見ながらおせち料理で一杯？

おせちといえば最近では、デパートや料亭、スーパーやコンビニのものが売られていて昔と比べると家庭で作ることが少なくなっています。

「おせち」は「御節」と書いてもともと奈良時代頃から行われている宮中行事の「節会(せちえ)」からきています。

一年のうちで3月3日(上巳じょうしー桃の節句)、5月5日(端午たんごー菖蒲の節句)や7月7日(七夕しちせきーたなばた)、9月9日(重陽ちょうようー菊の節句)などに神様に供える料理を「御節供(おせちく)」といました。

この習慣が江戸時代に庶民の間に広がり、いつの間にか正月に食べられる料理だけを御節供と呼ぶようになりました。

一説によると、第二次大戦後デパートが正月料理を重箱につめて売り出すときに「おせち」料理という言葉を使ったのでおせち料理=重箱に入った正月料理というイメージが日本中に広まったとも言われています。

正月は、年神様をお迎えし、新しい年を祝い、福を授けていただくという行事ですので、昔からのおせち料理には縁起のいいものが入っています。

数の子…卵の多さから子孫繁栄を願う
田作り(ごまめ)…昔いわしが畑の肥料
だったことから豊作祈願

黒豆…まめに働きまめに暮らせるよう
伊達巻…巻き物のような形から知識や文
化の発達を願う

栗きんとん…黄金色で縁起がよいことか
ら財産がたまるよう

昆布巻…「喜ぶ」

海老…腰が曲がるまで長生きできるよう

鯛…「めでたい」

紅白なます…紅白でめでたく、祝いの水
引のよう

なかには駄洒落のようなものもありますが、料理の一つ一つに意味があり、願いがこめられています。

また、料理を重箱につめるのは福を重ねる、めでたさが重なるという意味があるそうです。

みなさんも今度おせちを食べるときは、その意味を思い出してゆっくりと味わってみてはいかがでしょうか。



会社訪問



おじゃマンⅡ号の
儲かりまっか
大 換



株式会社 小佐田設備工業
和歌山市西河岸町75

会社概要

代表取締役 **植野 誠**
昭和48年5月24日生 38歳 B型

設立 故小佐田晴可氏が設立、昭和50年組合加入
平成22年12月株式会社に植野誠氏が現社長に就任

従業員数 配管工4名 事務員1名

工事概要 給排水衛生設備工事・給配水管改善委託業務・量水器取替委託業務等

資格等 2級土木施工管理技士・1級建築配管技能士・給水装置主任技術者

家族 母妻・長女の仁奈(にいな)ちゃん8歳(小2)・長男(もうすぐ 名前未定)

会社方針 「楽しく、おおらかに、皆仲良く」の社長のモットーに則って頑張ろう!

おじゃマンⅡ号の会社訪問は、昨年12月、株式会社を設立、来年(平成24年)の正月には、待望の長男が「おめでた!」の少々賞禄がつきすぎた「マコッちゃん」こと、植野誠社長82kgに究極のインタビューで迫ります。

おじゃマンⅡ号：社長就任、ちょうど1年、社長をめざして苦節18年(20歳で入社)ですが、今後の経営方針などどのようにお考えですか?

社長:人生は波乱万丈、勝負は一発勝負、何と言っても僕の人生「ギャンブル一代」がモットーですから。今は何といても馬より、かぶ!かぶ!

おじゃマンⅡ号：畑のかぶ? 田んぼのかぶ? 馬より牛のほうが、ええんちゃうん!もー今はトラクター

の時代ですよ、いや、もしかして牛馬時代がエコかも?それにTPPの問題やら、安心安全の問題やら、耕作放棄地の問題やらもあるし、前途多難ですよ。

社長:そーなんよー・・・ちゃう!ちゃう!! (株の『かぶ』俺はギャンブラー、されど、わが社の株は安心安全を守って堅実にいきます。

おじゃマンⅡ号：そろそろ、奥さんの方が結婚16年目にして「長男、おめでた!」という事ですが、社長の腹も、そろそろですね! (ちなみに長女は、結婚8年目らしい) なるほど、耕作は8年毎にか?)

社長:この腹は、趣味の「食べ歩き」が過ぎた結果です。毎週休みは娘と娘の友人をつれてデート三昧、食べすぎで「UP! UP!」してるわ。!

おじゃマンⅡ号:『食い過ぎないで、上を向いて歩こう!』で株式上場を目指して、社長業頑張ってください。

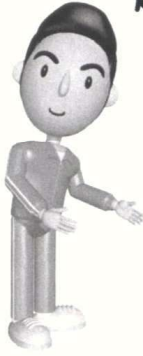
久しぶりの『職場の花』シリーズ第5弾

酒本 奈々さん (元☆の高校生) AB型
ピアノ歴13年、毛筆6段、硬筆4段、簿記2級、掃除大好き、お年寄り大好き、介護得意
ちなみに得意技は、〇〇の奈々変化?怖いぞー。



植野社長と『職場の花』酒本奈々さん

趣味のコーナー



Uchi-chanの
何と!
驚きました



歴史秘話—水道組合編



災害復旧現場確認にて(那智勝浦町)
(左)中村員章社長

Uchi-chanの『何と驚きました。組合秘話』は、第6代青年部会長を務め、現在組合理事でもある(有)東和水道工業所の中村員章社長(昭和39年11月23日生 47歳 O型)の『若年寄り物語—理事はつらいよ。』を語ってもらいます。

Uchi-chan: 中村社長、那智勝浦町水道復旧工事では、現地作業ならびに、竣工図面作製・測量ならびに那智勝浦町水道事業所との打合せ等では、何度も行って頂き、又会社の仕事が終わってからの図面作製では、深夜遅くまでご苦労様でした。

中村社長: いえ、いえ、それより青年部を中心に関係者の皆さんご苦労様でした。しかし若輩理事はつらかった物語やったなー。社長どうし、理事どうしの立場は、同じやけど年の差があるもので「中村理事、本管工事の図面得意やろ、CADも結構できるんやて、頼むな!」の石橋災害担当理事(1歳年上)の現地での突然の一言、「そりゃええ、中村理事、頼んどか!」の平岡災害担当理事(2歳年上)の簡単明瞭な一言、さらに「締切り日も決まってるで!」・「国の検査もあるらぞ!」・「写真整理もよろしく!」等々・・・(次々語る年上理事の二人)ほんまにもー、こらえてよー「那智の滝から飛び降りたいわ!」

平岡・石橋理事:「泣いたらあかん!ほな、滝までの道路も復旧したそうやから、つれっちゃんわ、神頼みしにいこら。理事やったら黙ってついて来い!ええな。」

中村社長: ということで本当に、二人の理事に拉致され再び、那智勝浦町につれていかれました。

Uchi-chan: 「ほんまに、鬼の様な先輩理事ですね。(赤鬼と青鬼や!足の短い!—社長の心の叫び) 大変でしたね、後始末も。「よくやってくれました、中村社長」。でも、聞く所によると中村社長が一番若いのに、「おじいちゃん」だそうですねー、息子さん(有生人(ゆきと)氏・25歳)も3代目ががんばってるそうですし。

中村社長: 娘が19歳で孫生んだんで42歳で「おじい」や、ヨイ!ヨイ!ヨーやで。(現在は孫二人♂♂) そや

けど、まだまだ現場バリバリで行くで、ゴルフもするし、プールにも行くし、スポーツ大好きやから元気はつらつよ! (小・中学は野球部、高校はバレー部、直川少年野球コーチ、PTAは保体部長)・・・でも〇〇理事の情報では、夜8時には寝てるらしい・・・

Uchi-chan: 最近、事務所兼自宅を新築されたそうですが?

中村社長: 以前は、事務所、自宅(直川地区)、資材置場が別々になっていたので、3年前に、馬力かけて資材置場(和歌山市六十谷1238-18)に自宅兼事務所を建てた、有功中学校のまん前で、高台やから、市内の眺めは最高や(夜は奥さんと和歌山の夜景を楽しんでいるらしい?) Uchi-chan近くで、材料足らん時は寄つてよ。

Uchi-chan: 会社社長としても、若年寄り理事としても、最年少おじいちゃんとしても、年寄り理事の講釈に屈することなく、那智の滝を登る若鯉のごとく上をめざしてください。

改めて那智勝浦町配水幹線復旧工事完成図書提出、お疲れさん!
赤鬼・青鬼



ユンボで掘削中の中村社長



編 集 後 記



謹んで新春のお慶びを申し上げます。組合員の皆様には輝かしい新年をお迎えのことと存じます。旧年中は、格別のご愛顧を賜わり、まことにありがとうございました。本年もどうかよろしくお引き立てのほど、お願い申し上げます。

昨年は、3.11東日本太平洋沖地震とそれに伴う東電福島第一原子力発電所の事故、その後6ヶ月も経たない内に発生した台風12号による紀伊水害と、大変大きな災害に見舞われました。ようやく仮設住宅の建設、がれきの撤去は進んだようですが、復興はまだこれからのようです。改めて、被災地の皆様には一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今年の干支は「辰」。辰年生まれの人は何をしてもテキパキとこなし、威勢よく、負けず嫌いなためライバルがいると勝つまであきらめないです。また、涙もろくて同情心もあり、人の相談ごとをよく引受ける親分肌な面を持ちます。十二支の中で唯一天界の動物で、善悪に厳しく多くの人の引立てを受けますが、悪意があつて騙そうとする者も現れるので要注意です。嘘を見抜く力があるが同情心がそれを上回る場合があるので、情に流されないようにしないと、深みにはまり込んで抜け出せなくなる場合がありますので、辰年生まれの方はご注意ください。

先日「那智勝浦町配水幹線復旧応援“ご協力感謝のつどい”」を開催し、参加して頂いた組合

員事業主をはじめ、従業員の方、組合職員、関係された方全員に感謝状と記念品を贈呈、労をねぎらいました。この応援活動をつうじて最もうれしかったことは、

- ①那智勝浦町の寺本町長を始め、町民の皆さんに感謝されたこと。
- ②全員が無事故無災害で帰還できたこと。
- ③参加者全員が厳しい環境の中で、共通の目標に向かって、お互いに協力し合いながら、目標を達成できた喜び、まさに組合設立の目的である「相互扶助の精神」が生かされて“絆”がより一層深まったこと。

であります。懇親会では、この支援活動に参加されての感想を皆さんに語っていただきましたが、その中で新規に組合に加入して2～3年の組合員の方が、「組合に加入して本当に良かった。組合に加入したから、こんな貢献ができた」と言ってくれました。必要とされる組合を目指して、より一層の使命感を改めて感じさせられました。

ユーロ圏の債務問題、東日本太平洋沖地震、紀伊水害、タイの大洪水等災害の影響等とりまく環境はきびしいものがあります。

本年も組合員の皆様にとりまして幸多き年でありますよう、お祈り申し上げます。

(編集委員 H生)

■組合だより 紀の水

●発行



和歌山市管工事業協同組合

理事長 小 向 俊 和

●編集

紀の水編集委員会

〒640-8251 和歌山市南中間町12

TEL(073) 436-6801

FAX(073) 436-6804

URL <http://www.w-kankoji.com>

E-mail:wakayama@w-kankoji.com